

## CTとMRIの適応の違いについて（ご参考）

病診連携においてご依頼いただくことの多い疾患について、CTとMRIのどちらが優れているかを表にまとめております。

一概には決めることは出来ませんが、ご依頼時の参考にしていただけたらと存じます。

なお造影剤を使用しないCT、MRIでの比較となります。

頭 部	めまい、頭痛	MRI ≫ CT
	脳梗塞	MRI ≫ CT
	脳腫瘍	MRI ≧ CT
	脳動脈瘤	MRI + MRA
	頭部外傷	まずはCTから
	脳出血、くも膜下出血	CT > MRI
	副鼻腔炎	CT = MRI
	中耳炎、真珠腫	CT ≫ MRI
胸 部	肺野病変（腫瘍、炎症）	CT ≫ MRI
	縦隔病変	まずはCTから
	大動脈瘤、大動脈解離	MRI（MRA）
腹部・骨盤	腹痛、腹部膨満感、体重減少	スクリーニングにはCT
	肝、胆、膵、脾、副腎、腎	まずはCTから
	胆道、膵管	MRI + MRCP
	水腎症	CT = MRI（MR urography）
	胆石、腎結石	CT ≫ MRI
	前立腺	MRI ≫ CT
	子宮、卵巣	MRI ≫ CT
整形外科領域	椎体（ヘルニア、腰痛）	MRI ≫ CT
	関節（靭帯、半月板）	MRI
	骨折	CT > MRI
	骨折（occult）	MRI ≫ CT
	軟部組織腫瘍	MRI ≫ CT